

## しのばず自然観察会より 2024-1 2024.01.01

### 2024年1月の活動 不忍池 定点観察 1月21日(日)



**集合:** 午前10時 不忍池 蓮池南西端  
緑の小旗あり (野外ステージ西側、湯島天神下交差点寄り)

今回は雨天中止

**持物:** 筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具  
(マスク、敷物、昼食)

解散は午後1時頃ボート池畔または藤棚

参加費不要 非会員の参加も歓迎

水質 (COD) 簡易測定も予定

### 2023年12月の活動 12月10日(日)の不忍池定点観察から

12月10日は快晴、ポカポカ陽気のもと、5名が参加しました。蓮池は池を覆う枯蓮の見通しが心持ち空いてきたかなという程度で、岸辺のオオバンとカエル島の手前のアオサギ、それに着水するコサギが認められたのみでした。ボート池では部分浚渫が始まり、ボートの水域が限られましたが、カモやユリカモメは工事区域内外を自由に往来していました。動物園池のカワウのコロニーでは、いつものグルグルという声が聞こえ、活気が戻りました。

**確認した鳥:** キンクロハジロ、ホシハジロ、オナガガモ、カルガモ、カイツブリ、オオバン、カワウ、アオサギ、コサギ、ダイサギ、ユリカモメ、ドバト、スズメ、ムクドリ、ヒヨドリ、ハシブトガラス  
**花:** サザンカ、雑種タンポポ、ユッカ(アツバキミガヨラン?)、キク、ホトケノザ、カンナ  
**実:** アメリカセンダングサ、トウネズミモチ、アキニレ、コガマ(穂綿)

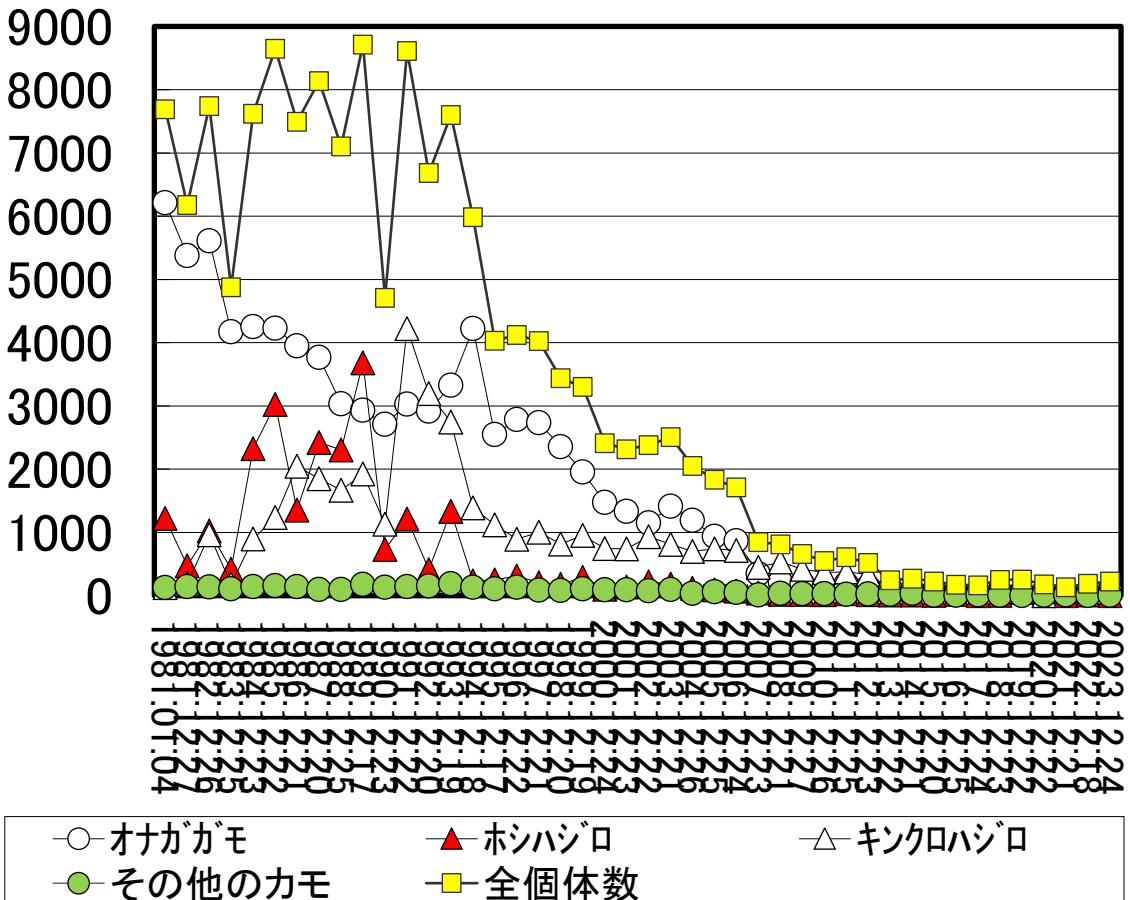
不忍池ボート池の部分浚渫がいよいよ本格化 当会の水質簡易測定では、不忍池の他の池との間に水質の目だった差異はありませんので、池が浅くなって、ボートの運行に支障が出始めたのかも知れません。池の2/3程を浮きとロープで囲ってボートを入れないようにし、陸や筏上のポンプと長いホースがつながり、底泥を水とともに吸い上げる方式です。1980年代には浚渫船や潜水夫が出動する場面もありましたが、今回はオレンジ色のホースが目立ちます。日曜日は、作業員の姿がなく、カモたちは普通に泳いでいます。

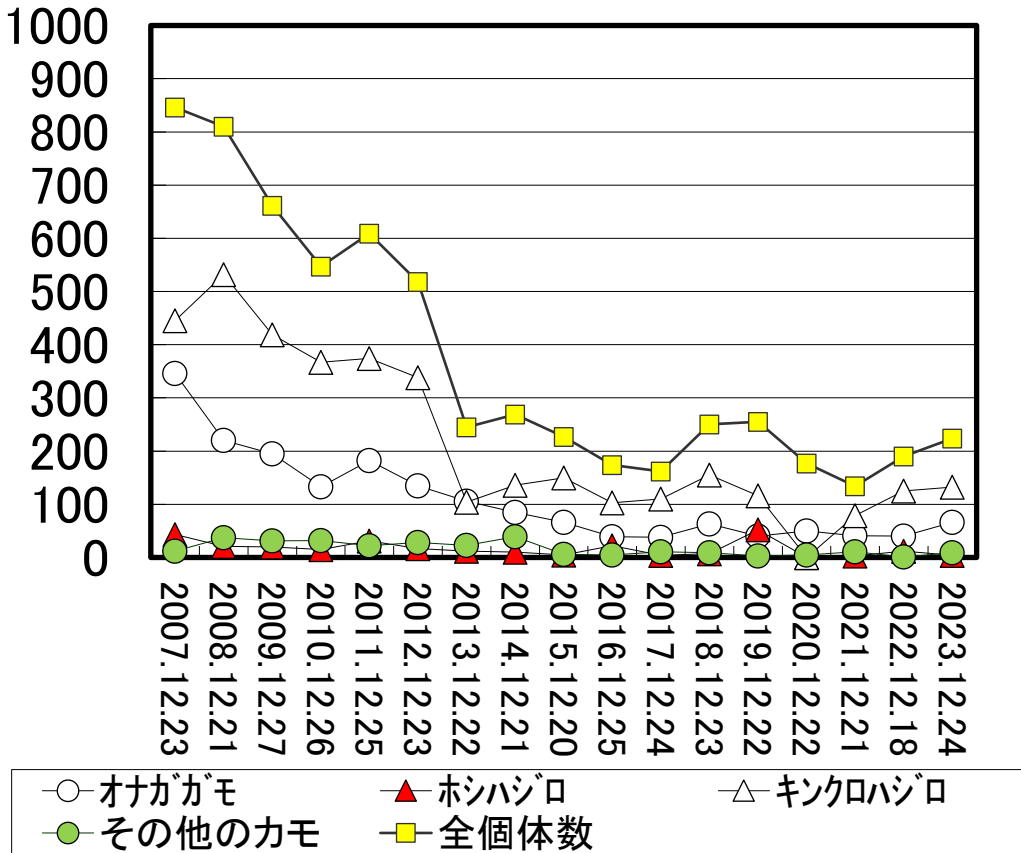
### 2024年2月の活動 不忍池定点観察は 2月11日(日)の予定です

## 2023年12月24日の不忍池水鳥個体数調査から

12月24日は曇りでとても寒い朝でしたが、遅く到着した会員を含めて8名が参加しました。蓮池は相変わらず蓮の枯れ茎に覆われて、水鳥の気配はほとんどなし。ボート池は浚渫ロープで仕切られていて、残りの狭い部分にボートが繰り出す状態でしたが、カモの総数は微増。動物園池も蓮の繁茂でカワウの島を除いては閑散としていました。カワウは1988年の1700羽超には遠く及びませんが、1996年と2000年の数に戻りました。

キンクロハジロ	132	カワウ	504
オナガガモ	66	ダイサギ	2
カルガモ	20	コサギ	4
ホシハジロ	4	アオサギ	7
ハシビロガモ	2	カイツブリ	1
オオバン	28	バン	1
ハクセキレイ	1	カワセミ	1
ユリカモメ	132	セグロカモメ	1

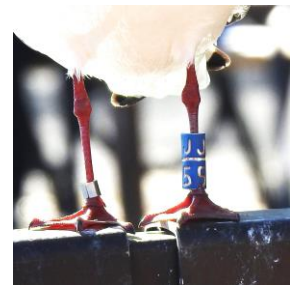




## 2023年12月10日(日)の不忍池定点観察から 小川千恵子

12月10日

9:23 いつも通りにボート池に張り出したテラスへ。目の前の手すりにユリカモメ1羽が、こちらを向いて止まっている。右脚に一つの輪、左脚には上下に1、5と記した輪がふたつ付いている。(後に撮った写真には、J、5とあった。)



キンクロハジロは見えるだけで110羽以上。雄雌の区別はまだ難しそう。勢い良く羽をパタパタ音をたてて動かしていたり、くちばしで胸あたりを羽づくろいしたり、まだ丸くなって眠っていたり。ユリカモメ70羽はひっくり返したボートの上にならりと並び、手すりや水面にも。オオバン2羽が目の前を泳ぐ。水の中の鉢そばにオナガガモ雌2羽、雄3羽。ボート池北の動物園の敷地の中のイチョウ4本が黄色で美しい。

水の中の鉢の南側にコサギ1羽が羽づくろい。もう少し南下するとホシハジロ4羽が首を曲げて丸くなって浮かんでいる。眠っているみたい。

道はイチョウの葉に敷きつめられ、人が通る所は、人が歩いたたびに、細くなった葉が浮く。

幅5mm位、丈10~20cmの細い葉が茂る。これがメヒシバ、オヒシバ等の刈られたあとの新しい葉？その上を黄色いイチヨウの葉が覆う。手すりそばにホトケノザが並び、中にはピンクの花が見える。

ボート池の中にグルリとオレンジ色の大きな樽のような物がつながって浮いている。南の方はボートをひっくり返したような物も3つつながって輪になって水面を区切っている。何？樽のような物をつないだロープはボートには影響がないらしく、ボートはその大きな輪を出入りしている。

キンクロハジロ 2羽とホシハジロ雄 1羽が北へ泳ぐ。桜の木の下は茶色になった桜の葉が敷きつめられている。柳の手前にある少し太い1~1.5cm位の幅で丈が20cm以上ある草が赤茶けている。周りの細い葉は幅5mm以上で丈5cm位の短かさ。

そういえばあの丸い葉を見てこなかったと、少し戻る。丸い謎の葉はそのまま広がっている。上には大きな看板があった！11月~3月中旬まで水質浄化対策で底泥を船上から吸引除去するというもの。ビックリ！渡り鳥が来ているこの時期に???でも考えてみると真夏はボートの稼ぎ時、泥吸引というと臭いがすごいかと。せめてできるだけ一日に短時間で短期間に、夜は静寂をと願う。

オナガガモ雌6, 雄5が草の上に上がってお休み中。

#### 集合地から

カンナはまだ花が残り、ピンクの菊は盛り。

ボート池西側のしのぼず通り沿いの街路樹のイチヨウ 17本に真黄色の葉が並ぶ。(帰りにこの道を横切ったが細い歩道はイチヨウの葉で敷きつめられ、横にイチヨウの木が並び、そこを人が歩き、イチヨウの葉がハラハラと落ち、絵のように美しかった。)

公園管理所の方4人が、通り、挨拶をし潔が少し話す。

池の周りにある何本かの柳は、うす緑と黄色の葉に変わり、こんもり丸い形に。

蓮池の東側も黄色のイチヨウ 8本が見える。弁天堂西側にある落羽松が茶色に変わった姿で、とても大きく見える。動物園の中に同じように茶色に変わった木が何本もあり、とんがった三角形に見え、メタセコイアかな？大きな落羽松の右手前に柿の実が鈴なりになった木が見える。(大藤棚西にある柿)

蓮はほとんどが薄茶の棒状になり、中には少しか茶色になった葉が葉のすぐ下から折れてたれ下がっている。

以上が、集合地から見えた風景。

水上音楽堂辺でコサギが西へ飛ぶのが見える。別のコサギが北へ飛ぶ。

池に張り出したデッキ入口のガマの穂は薄い茶色のフワフワ、ムフムフの綿毛状態で、濃茶の時の2倍以上にふくらんでいる。1本、下半分がまだ丸い濃茶のままで、上半分がフワフワ状態なのをTaさんが見つかる。上から熟していくんだ。

ヨシも薄茶色になっている。その横にあるセンダングサはまだ黄色の花をつけているが、実

もできている。実のひとつひとつはキツネの顔の形。耳の部分がとんがっているのがアメリカセンダングサという。皆で本やらスマホやらで見て判断するが…??黄色の花はそのままで衣服にくっつく。枝をいじっていた潔の服には実がくっついていた。

デッキの上に泥が小山になっている。その中にマカダミアナッツみたいな形の蓮の実を発見。

下町風俗資料館はシートですっぽり覆われているが、中の建物はなさそう。壊したのかな? 東側のビル2棟も工事中らしくて、白いシートで覆われていて、こちら辺は異質空間。

ふと野外音楽堂の方を見ると赤茶色の落羽松3本がくっきりと見える。

動物園弁天堂入口に一番近いイチョウは全体の姿も良く、黄色も見事でしばし見とれる。そのイチョウの北の楠にムクドリが数羽飛び込む。

弁天堂入口の北の動物園池の蓮の下の水面にコサギがいるとSaさん。その横にカルガモがチョコチョコ泳いで姿を見せる。

萩がピンクの花を付けている。入口北の萩は枝先に少しの花、露店の間から見える蓮池北側にある萩は結構な数を咲かせている。きれいだが季節を思うと???十月桜も少し残っている。そして小さい花の椿?

大藤棚の南東のジュズ玉は背が低いまき葉が茂っている。池を見ると尾の赤いトンボが飛ぶが、今、この時期にトンボ?と我眼を疑う。しかし、柿の木の手前の手すりの石の上にジッと止まっているアキアカネ。やっぱりさっきのはトンボだったんだ。



柿の木の北側のカヤノキ。葉の先がとんがって痛いのがカヤ、痛くないのがイヌガヤと、潔。

大藤棚を出て動物園池側を見る。カワウの島からカワウ達の鳴き声がガヤガヤと聞こえる。まだ巣を作っているのか、わらのような物を運ぶカワウがいる。

弁天堂の北側に飛び出した社。地獄の音が聞こえるという。そこの西端に黒い実をつけた木が見える。ネズミモチかトウネズミモチか?本を見、スマホを見比べると…???

弁天堂を出て、橋を渡って落羽松の下。暑い頃にオシロイバナが咲いていたが、刈られて、ここも葉だけが広がる。種子が分散したらしく、一帯に小さな葉が広がる。来期は…???

ボート場の北側に止められているボートの上にダイサギ発見。キンクロハジロ、オオバン、ユリカモメが見られる。

今朝コサギが居た、鉢の南側にカイツブリ。やっぱり朝と同じ辺りにホシハジロ達。

## 昼食中

オナガガモが3羽、4羽、6羽とまとまって、空を飛ぶ。行ったり来たり。編隊の練習?

しのばず自然観察会 事務局 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川潔 方  
1975年創立 電話 03-3828-8775 URL:<http://sinobazu.extrem.ne.jp>  
郵便振替 00100-8-84609 しのばず自然観察会 年会費 2,000円

\*\*\*2022年以前の会費未納の方も忘れなく!退会の場合は早めに葉書で事務局へ\*\*\*

## しのばず自然観察会 50 周年企画記念出版について 会員・会友の皆さまへ

しのばず自然観察会は 1975 年 9 月 15 日の創立以来、2025 年で 50 周年を迎えます。その記念にしのばず自然観察会 50 年の足跡と、フィールドである上野公園をテーマに記念出版「私たちの上野公園史」(仮称)を編集してきました。この間、執筆予定者の病気や死去があり、当初の予定を変更せざるを得ないことになり、下記に掲げる目次もそれが反映されています。ほとんどの原稿は当初から事務局・代表幹事を務めて来た小川潔が書いたもので、上野公園の住民であり利用市民である目線からの執筆になっています。既刊の「上野のお山を読む」などと同様、地域からの発信という姿勢を継承しています。

### 「私と上野公園」 および Q&A 原稿募集 締め切り 2024 年 3 月 31 日

しのばず自然観察会の記念誌ということで、会員や会友、資料交換団体の皆さまからの原稿をお待ちしています。具体的には、「私と上野公園」というようなテーマで、上野公園やしのばず自然観察会とのかかわり、思い出などの原稿をいただけないでしょうか。長さは手短に、最大 200 字程度。「上野公園、大好きです！」というような形でも結構です。より長いものをご希望の方は、別途ご相談ください。

また、上野公園 Q&A というコラムも入れたいと思っています。上野公園について、疑問や不思議と思うことをお寄せください。もちろん、タネ明かしの解答つきも大歓迎です。

なお、ここでの上野公園の概念は、上野のお山と不忍池を含む都立上野恩賜公園にとどまらず、寛永寺など歴史的に上野として扱われてきた範囲を含めます。

原稿は、メール、手紙で、下記しのばず自然観察会までお寄せください。

なお、必ずお名前を書いてください。印刷時に本名掲載を望まない方は、掲載用ペンネームを併記してください。非会員の方も同様をお願いします。

締め切り後、約 1 年かけて全体の配置や分量、判サイズ、カラーページなどの検討と、自費出版費用の見積もりに入ります。これらの工程とその後の校正作業には、多くの方の手や眼が必要です。原稿のチェック、レイアウトのアイデア、もしかすると挿絵などの作成等々。編集作業に加わっていただける方はご連絡ください。

### 上野公園 Q&A 例:

Q: 上野公園は夜間立ち入り禁止ですか？

A: はい、午後 11 時から午前 5 時(夜明け)まで立ち入り禁止です。公園に出入り口の扉があるわけではありませんので、物理的に完全な規制はできません。夜間は警察のパトロールカーが回って、人を見つけると退出を呼び掛けることがあります。第二次大戦後、何度か解除がありました。そのたびに殺人事件が起こって再規制となって現在に至っています。

しのばず自然観察会事務局: 〒110-0001 台東区谷中3-1-9 小川 潔方

メールアドレス: ogawak@view.ocn.ne.jp @を@に直して入力してください。